

老健みやざき

第36号 平成30年3月



宮崎市大塚台から眺めた国道10号線と中心市街地

CONTENTS

- 「人に地域に関わり合おう」
～第14回宮崎県老人保健施設協会研究大会特集～
- 坂の上に一朶の白雲輝く
～全国大会 in 松山レポート～
- 部会活動報告
 - ・「リハ栄養」学びました（栄養・給食研究部会）
 - ・「老健は地域包括ケアの中核」（在宅・支援相談研究部会）
 - ・「作ろう働く生きがい／キャリアアップ中堅者研修」（看護・介護研究部会）
 - ・作りました！「介護の仕事」PRパンフ（広報部会）
- 会員施設情報（宮崎県内の介護老人保健施設）



人に地域に関わり合おう

～第14回大会に266人集う～

第14回公益社団法人宮崎県老人保健施設協会研究大会を平成29年12月23日、宮崎市のJA・AZMホールで開きました。県内の会員老健施設から266人が参加し、講演や研究発表を通じて研鑽と交流を深めました。



大会開催にあたっては、県内会員老健施設より応援スタッフの協力を賜りました。



開会の挨拶に立った榎橋弘喜協会会長は、介護老人保健施設の定義が「在宅復帰施設」から「在宅支援施設」に変更されたことに触れつつ、地域包括ケアシステムの中核施設として老健施設の多面的な機能の充実を訴え、「みなさん今日はしっかり勉強して欲しいと思います」と呼びかけました。



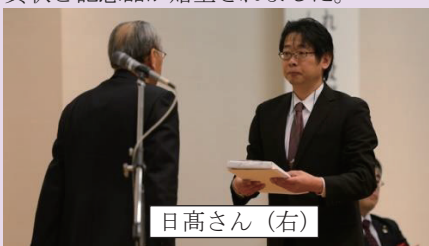
榎橋会長

今大会は宮崎県の後援をいただき開催したものです。来賓としてご臨席賜った県福祉保健部の畑山栄介部長は「来年度診療報酬と介護報酬の同時改定があり、医療と介護の連携や自立支援強化のため、足腰の強い地域医療を作ることが求められている中、老健施設は医療と介護の専門家がいて、これらをしっかりつないでいく施設だと思えます。それは県民の健康に直結するものであり、私たちが支援するところは支援していきたいと考えています。今日の大会のテーマはまさしく時宜にかなったものだと思います」と、大会および今後の老健施設の取り組みに対し大きな期待をお寄せ下さりました。



畑山部長

大会のテーマ、「人に地域に関わり合う老健～地域包括ケアの一翼を担う老健施設を目指して～」は、会員老健施設の役職員を対象に募集を呼びかけ、応募された中から決定したものです。このテーマを応募いただいたのはむつみ苑の日高尚秀さん。開会式ではその授賞式があり、賞状と記念品が贈呈されました。



日高さん(右)

「地域社会の一翼を担って！」 ～木原県長寿介護課長講演～

開会式に続き、基調講演となりました。演題は「老人保健施設を取り巻く環境の変化と期待される役割について～地域共生社会を見据えて～」。講師は宮崎県福祉保健部長寿介護課の木原章浩 課長にお願いしました。

講演は(1)老人保健施設制度の変遷、(2)本県の現状・将来推計と課題、(3)地域包括ケアシステムの深化・推進、(4)老人保

健施設を取り巻く環境の変化、(5)多様化する社会的要請への対応・・・という流れで進められました。

この中で「(4)老人保健施設を取り巻く環境の変化」については、「支え手」、「受け手」に分かれるのではなく、子供や高齢者、そして障害者などすべての人々が、一人ひとりの暮らしと生きがい、そして地域をともに創る「地域共生社会」について言及。高齢者だけでなく障害者や子供など地域における一体的なサービスを提供することで、互いの暮らしが豊かになったり、子供と関わることで高齢者のリハビリや障害者の自立・自己実現に良い効果が生まれたりしている「富山型デイサービス」の実践例などを紹介しながら、「重度障害者の家族休息確保



木原課長

の施設などとして、県からも老健に受け入れをお願いします。障害特性の理解や障害児の親との関係構築など難しいかもしれませんが、地域共生社会としてウイングを広げて欲しいと思います」と、老健の他職種連携の強みを活かした共生型サービスへの取り組みを呼びかけました。

最後に「(5)多様化する社会的要請への対応」について、「老健施設に期待すること」として「入所・居住系サービス類型からみた老健施設は、特養とかぶっているところがあります。しかし老健が目指す姿としては『在宅復帰支援』です」と前置きした上で、「老健施設本来の役割である、在宅復帰、在宅支援に取り組む」「地域で何を求められているか把握し、その役割を果たす」、「他職種協働という老健施設の機能を地域に展開する」、「高齢者のほか、障がい者などの生活上の困難を抱える方への支援にも目を向ける」の4つを挙げ、「老健施設の本来的な機能、役割に特化してもらうとともに、多様化する社会的要請を見据えた取り組みも行い、地域共生社会の一翼を担う介護老人保健施設を目指して下さい」と呼びかけ、講演を締めくくりました。

情報と問題意識を共有 ～研究発表 38 題～

基調講演終了後は昼食をはさんで研究発表となりました。今回の大会には会員老健施設などから38の演題をエントリーいただきました。研究発表は8つの分科会で行われ、各会場で熱心な意見、情報のやりとりが行われました。



地域共生型社会、老健の役割は？ ～前田副施設長市民公開講座～

大会最後は市民公開講座。演題は「共生型社会の実現に向けて～障がい者施設の最前線～」。講師は社会福祉法人善仁会、宮崎リハビリテーションセンターの前田良一副施設長に依頼しました。

講演は(1)障害者総合支援法について、(2)介護保険と障害者支援法の違い（65歳問題）、(3)宮崎リハビリテーションセンターの取り組み、(4)共生型社会の実現に向けての取り組み・・・という流れで進められました。

その中で「(1)障害者総合支援法について」に関し、平成18年4月1日から施行されていた「障害者自立支援法」が改正され、平成25年4月1日から施行された「障害者総合支援法」の制定の背景や改正のポイント、同法の目的について説明がありました。

そして、介護保険法など、他の法令による給付との調整について定めた同法第7条をスライドに示しながら「障害者総合支援法により障害施策サービスを受けていた障害者は、65歳になれば介護保険による介護給付を受ける対象者となります。64歳まで受けていたサービスが介護保険のサービスと同じようなサービスであれば、介護保険のサービスを優先させないと、法律で規定しています」と述べ、

障害者が65歳になることで生じる「65歳問題」の実情を、具体例を交えながら解説しました。「障害者が老健を利用するにあたり、この『65歳問題』をカバーしないと行けません。障害者総合支援法から介護保険法に移行しやすくするために、この『65歳問題』をご理解いただきたい」と訴えました。



前田副施設長

また講演テーマである「共生型社会の実現に向けての取り組み」として、スライドに、(a)介護支援専門員と相談支援専門員の連携、(b)障害特性の理解と対応、(c)社会の一員として退所できるよう支援を行う（社会背景を理解して）・・・の3つを呈示。その上で「『社会の一員として退所できるよう支援を行う』、これを一番伝えたいと思います。施設を退所するというとき、どういう支援をしていく

か、家に帰ってどう生活し、何をするか、それを考えないといけません。退所して社会の一員として、社会参加につないでいかないと長続きしません。共生型社会のためには、その人に役割がないと寂しくはないでしょうか。老健の皆さんも利用者一人一人について、本人が何をしたいか、社会参加のためにアプローチをどうやるか、と考えると思いますが、障害者の人も同じです。この世に生まれてきて、何かしらのトラブルで頓挫したけれど、次のステップを踏み出すためには役割を残す。その残し方が共生型社会です」と言葉に力を込めました。

診療報酬と介護報酬の同時改定を目前に控えた中、大会のテーマである「人に地域に関わり合う老健」のもと、参加した266人が地域包括ケアの一翼を担う老健の進むべき道について考え、共生社会実現のための思いを新たにすることができた、大変有意義な大会となりました。

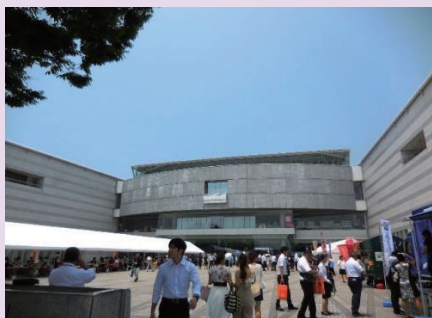
15回大会は12月22日！

第15回公益社団法人宮崎県老人保健施設協会研究大会は平成30年12月22日（土）、JA・AZMホールで開催予定です。多数の皆様のご参加および演題発表をお願い申し上げます。

坂の上に一朵の白雲輝く

～全国大会 in 松山に4500人集う～

「第28回全国介護老人保健施設大会愛媛in松山」が平成29年7月26日～28日、松山市のひめぎんホール他で開かれました。全国から老健施設役職員4,500人が参加。講演やシンポジウム、演題発表等を通じて研鑽を積み、交流を深めました。



大会テーマは「坂の上に輝く一朵（いちだ）の白い雲～超高齢社会のニーズに応えられる老健を目指して～」。27日は開会式に続き、厚生労働省の濱谷浩樹局長の特別講演「行政の観点から介護老人保健施設に期待すること」がありました。



ランチョンセミナー、(公社)全国老人保健施設協会の東憲太郎会長による講演と続き、シンポジウム「他職種協働老健施設における看取り～多死社会を迎えて～」では、全老健の本間達也副会長を座長とし、厚生労働省医政局の佐々木健地域医療計画課長、日本在宅ケアアライアンスの新田國夫議長、介護老人保健施設紀伊の里の山野雅弘施設長、介護老人保健施設鶴ヶ島ケアホームの小池真由美生活部長、介護老人保健施設みのり園の西谷憲介主任が壇上に上がり、それぞれの立場から意見を出し合いました。

演題発表は27日と28日の両日にわたってあり、口演、ポスター合わせて1,200もの発表が全国からエントリーされました。このうち口演発表はひめぎんホールに加え、愛媛看護研修センター、愛媛県総合社会福祉会館、松山全日空ホテルの4

施設、21会場で行われました



テーマ別に分けて行われた口演発表は、それぞれの施設において発生した問題とその解決策、新たな取り組みとその効果などについて行われ、同じ悩みや疑問を抱える参加者と発表者の中で熱心な意見のやりとりが交わされました。問題意識が共有され、それぞれの職場での実践に向けた解決の糸口が得られるなど、大変有意義な分科会となりました。

27日の分科会に続き、櫻井よしこさんによる市民公開講演「今、私たちが出来ることはなにか」がありました。

ジャーナリストで公益財団法人国家基本問題研究所の理事長も務められている、テレビでもお馴染みの櫻井さんの講演を聴こうと、一般の方も加わり会場は満席となりました。さっそうと登壇された若々しい櫻井さんが「昭和20年生まれの72歳です」と切り出すと、会場からは驚き声が上がりました。さらに「106歳の母を自宅で介護しています」と続けると会場のどよめきは一層高まりました。

病に倒れ、入院されたお母様は胃ろうを造設、口からも食べることがない状態で家に戻られたそうです。「100パーセント安全な道を生きる、しかし美味しいものは食べられない。それよりも時々誤嚥しても、その時に出来る治療をしながら夏はスイカ、秋は柿、冬はリンゴ、そして愛媛ならミカンというように、美味しい物を食べて生きる方がいい」

と考えた櫻井さんは、周囲の協力も得ながらお母様が口から食べられるよう献身的な努力を重ねられ、その後ステーキも食べられるようになったとのこと。受講者は感銘と尊敬の表情を浮かべながら聞き入っていました。

「何があっても前向きに考え、心を前向きに持っていれば大丈夫」というお母様から教わった言葉を紹介され、「頑張っていれば神様が見ている、回りの人にも伝わっていく。何があっても大丈夫」と呼びかけて講演を締めくくった櫻井さんの素晴らしい講演に、会場からは割れんばかりの拍手がおくられました。

そのほか、アニマルセラピーや福祉・医療機器展もあり、参加者の関心を集めていました。



同大会は愛媛県内の老健施設役職員が総力を結集し成功に導きました。ご尽力に敬意を表するとともに、参加者一人一人に丁寧なおもてなしをしていただいたことに対し、心より感謝申し上げます。

発表しました！ 「介護の仕事 PR パンフ」 (広報部会)

当協会広報部会は「その他(1)」(7月28日、於：松山全日空ホテル)の分科会で口演による演題発表を行いました。

演題は「広めよう！『介護が教えてくれたこと』～『マンガでわかる“介護のしごと”』作成への取り組み～」。

当協会が宮崎県から受託、実施している地域医療介護総合確保基金を活用した「『介護の仕事』理解促進事業」の一環として作成、配布したパンフレットについて、作成の目的や完成までの経緯、そして出来上がったパンフレットの内容等について発表、紹介いたしました。



「リハ栄養」学びました 栄養・給食研究部会研修会

栄養・給食研究部会は平成29年5月13日、潤和リハビリテーション財団本部で研修会を開きました。20名が参加し「リハビリテーション栄養」について学びました。



吉村課長

講師は株式会社クリニコ企画情報部の吉村俊一郎課長。リハビリテーション栄養(リハ栄養)とは「ICF

(国際生活機能分類)による全人的評価と、栄養障害・サルコペニア・栄養素摂取の過不足の有無と原因の評価、リハ栄養診断、ゴールの設定を行ったうえで、障害者やフレイル高齢者の栄養状態・サルコペニア・フレイルを改善し、機能・活動・参加、QOLを最大限高める『リハからみた栄養管理』や『栄養からみたリハ』。これを踏まえ、リハ栄養のケアプロセスや効果等について説明がありました。

その中で、入院時に栄養障害を認める人は、入院時FIM(※(Functional

Independence Measure、機能的自立度評価表)も低く、FIM利得も小さい上に自宅復帰率も低いものの、入院時に低栄養でも栄養改善することでFIMの向上ができることがデータを用いて示されました。

またサルコペニアに関しては、運動器系のトラブルだけでなく、内部障害も引き起こし、ADL低下や死亡リスク上昇にもつながるといった研究報告を紹介。サルコペニアの原因には原発性である加齢に加え、二次性の活動(廃用性筋萎縮、不活動など)、栄養(飢餓、エネルギー、摂取量不足)、疾患(侵襲、悪液質、神経筋疾患)などがあり、栄養改善を考慮した適切な栄養管理が重要であるとともに、飢餓の場合は加齢によるサルコペニアに最も有効なレジスタンストレーニングは禁忌であることなどが指摘されました。

続いて入院時には必ず栄養アセスメントを行い、低栄養の可能性のある患者を見落とさないことが必要とし、そのためのツールが紹介され、適切な栄養管理について、リハビリテーションに必要なエネルギー量を計算する際にはリハビリによるエネルギー消費量や、栄養改善(体重増加)のためのエネルギー蓄積量を考慮することの重要性を学びました。

リハビリテーション効果を高める栄養療法に関しては、1日3回の食事だけでは摂取しきれないことがあり、食間や眠前、リハビリの合間や前後に栄養剤を摂取す

るなどして1日トータルでエネルギー必要量を確保するとよいとのことでした。また、運動後に筋肉の合成が促進されることを踏まえ、運動直後30分以内にたんぱく質と糖質を同時に摂取することによって、筋たんぱく質の合成が増強されることが期待されるとし、筋肉を維持するための栄養について説明がありました。



これらを踏まえ、日本静脈経腸栄養学会の発表事例が紹介され、リハ栄養を実践することで様々な効果が得られたことなどが示されると、参加者は自施設でのリハ栄養への取り組み強化に向けて、思いを新たにしながら耳を傾けていました。

栄養・給食スタッフだけでなく、リハビリ専門職をはじめ他職種で取り組むことで利用者の諸状態を改善し、機能・活動・参加、QOLを最大限に高めることができるリハビリテーション栄養について、わかりやすく学ぶことができた大変有意義な研修会となりました。

老健は 地域包括ケアの中核 在宅・支援相談部会研修会

在宅・支援相談研究部会は平成29年9月15日、宮崎市佐土原総合文化センターで合同研修会を開き、72人が参加。地域包括ケアシステムについて学びました。



成松さん

まず宮崎市福祉部介護保険課の主任主事、成松宏樹さんによる講演「これからの地域包括ケアと介護保険制度の動向～地域包括ケア

システム構築への取り組み～」がありました。全国と宮崎市の高齢化や認知症高齢者等の現状と今後の予測、そして地域ぐるみの支え合いの必要性について説明した上で、「誰もが、住み慣れた家で、地域で、安心して暮らし続けることができるしくみ」である同システムの必要性を強調。宮崎市では公募により同システムの愛称を「ぐるみん宮崎」に決定し、同名の情報誌を市内の各家庭に配布するなど、取り組みの様子を紹介しました。

国がすすめる同システムは「住まい」、

「介護予防」、「生活支援」、「介護」、「医療」の5つを一体的に提供する仕組み。宮崎市はこれに「医療介護連携」、さらに「認知症」の7つを「ぐるみん宮崎」の柱とし、これを「行政」、「地域包括支援センター」、「関係機関・民間企業等」が支え出すとのことでした。

また高齢者が人生の終盤までできるだけ在宅で元気に暮らせることを支援するために市が始めた「自立支援型地域ケア会議」を説明。介護支援専門員が立てた目標とサービス内容について宮崎市が会議をコーディネート、専門職が助言を出し合い自立支援型の目標と支援計画にブラッシュアップしていく内容を示すと、参加者は高い関心を示していました。

続いて「地域活動の取り組み紹介」と題し、宮崎市赤江地区地域包括支援センターの古川拓矢さんが講演。まず高齢化が進んでいる団地で、公民館などの集会所がないため、団地内の通所介護事業所を借りてサロンを運営した同センターの事例を紹介。



古川さん

次に健康運動教室を実施している地区で、市から派遣す

る健康指導員や看護師のみでは十分な対応ができないため、訪問リハビリから理学療法士を派遣し、身体機能の評価や体操の指導を実施するようにした事例が報告されました。

その上で老健が自治体活動へ参加するメリットとして(1)施設が自治会に加入することで自治会行事などが把握できる、(2)自治会の行事へ職員を派遣することでお祭りや敬老会、介護予防教室などへ参加できる・・・などをあげました。

最後に「地域の住民などからすると、専門職は敷居が高いイメージがあります。それを解消するためにも自治会や関係機関に所属し、顔の見える関係を築くことが大事です。また関係機関の委員の高齢化が進んでいるため、皆さん達若い力が必要です。そして地域住民の方々と顔を合わせることで、職員個人を覚えてもらい、それが法人のPRにもつながりますし、困った時に地域の人が助けてくれ、仕事がやりやすくなることもあります」と、地域活動に参加することのメリットを説明し講演を締めくくりました。



作るう 働く生きがい キャリアアップ 中堅者研修

～看護・介護研究部会～

県介護人材確保推進事業として開催

介護施設で働く生きがいをつくろう・・・。

平成29年度キャリアアップ中堅者研修「介護施設で働く生きがいをつくる～自らが成長モデルになる～」を平成29年6月17日、宮崎市のJ・A・A・ZM別館で開催しました。60人が受講し、講義やグループワークを通じて研鑽を深めました。

この研修会は地域医療介護総合確保基金にかかる介護人材確保推進事業として、宮崎県の委託を受け当協会が実施するもの。看護・介護研究部会が主体となって企画・運営にあたりました。

開会にあたり、同部会の上村久美子委員長（当時）は「2025年度には38万人の介護職が不足と予測されており、国や県もいろいろな対策をとってくれています。そのような中、介護の現場でがんばって下さっている皆さんがやりがいを持って仕事に取り組めるよう、今日の研修会はどのような目標を持てばいいかを気づかせてくれるものになると思いますし、ひいては介護人材の確保につながればよいと思います。今日はグループワークもありますので、積極的に参加し、色々な施設の人と交流する中で、情報や意見を交換し、有意義な研修をして下さい」と呼びかけました。



上村委員長（当時）

人生を自分で作るため自分にベクトルを

講師には多くの企業や施設で人材育成研修をされている、オフィス・アール代表の島原竜一先生をお招きしました。島原先生は民間企業で約20年間、総務全般の実務や管理の経験から、人材の大切さ、適材適所で力を発揮することの大切を学び、社員教育の必要性やコミュニケーションの重要性を痛感。その後公的機関のアドバイザーとして年間400～500件のカウンセリングや就職支援を行い、キャリア開発の重要性を学ばれました。メンタルヘルスの促進員として県内の事業所を訪問しメンタルヘルスの指導やセミナー講師を実施。また企業向けに階層別・

職能別社員教育も手がけられています。特に求職者や在職の一般社員、管理監督者、経営者などさまざまな視点からの支援を得意とされています。

「色々な所で私は話をしていますが、『自分の人生は自分で作らないとだれも作ってくれません』と言っています。自分を取り巻く環境は自分で作っているに過ぎません。自分を変えたら環境は大きく変わります。だからまずは自分にベクトルを当ててみましょう。自分の内に答を聞いてみましょうと話しています。自分で自分の中身を振り返らないと何の成長もありません。人のせいにして生きていくと、すごく苦しい人生になってしまいます。今日の研修では『人ごだから』とか



島原先生

『研修で言ったことだから』とか『よその施設の話だから』などと考えるのではなく、『自分の心が今何を感じているのだろう』と自分自身に問いかけることから成長していく、ということとを今日は一緒に考えていきたいと思います」と切り出した島原先生、「研修の約束事」として「積極参加」、「積極傾聴」、「好意的関心」の3つをあげるとともに、「自分自身の働く意味を見だし、自らが成長モデルとなる働き方を学びましょう」とこの日の研修の目的を提示し、講義が始まりました。

グループワークで得た多くの学び

研修はまず国内県内の人口推移、その中での生産年齢人口などについて触れつつ、介護業者の倒産が過去最悪のペースで進んでおり、その背景として介護分野の人手不足があること、そして介護人材が集まる企業づくりのため(1)介護を目指す人が働きたいと思える職場、(2)職員が辞めない職場、(3)職員の将来に向けての成長の道標と、仕事の評価、良好な人間関係・・・が重要であることが説明されました。

これを踏まえて「モチベーションとは（行動にかりたてる力／動機とは）」、「働く意味（仕事をどう捉えるか／キャリアデザインの作り方／目標を持つ）」という流れで講義が進められました。この中で「働く意味（仕事をどう捉えるか）」については、「3人のレンガ職人」という物語をもとに、グループワークが行われました。旅人が3人のレンガ職人に各自の仕事に対する考えを聞いて回る内容で、メンバーはそれを今の自分に当てはめ、自分は仕事をどう捉えているか、今後どのように仕事をしていきたいか、など意見を出し合い、各グループとも真剣なワークが行われました。



部会活動報告



各グループでの話し合いの結果がその後発表されました。いずれのグループも自分自身の働く意味を見だし、働くことに誇りと生きがいがあるような素晴らしい内容で、受講者は自分たちと他グループとの違いや共通点を見いだそうと真剣に聞き入っていました。ひとつの発表が終わるたびに、他グループからは拍手がおくられました。

終わりに島原先生は、「介護が人と関わっていく仕事であり、



そのために感性を磨くことが重要」と指摘しつつ「皆さんも仕事が大変で、悩みや不安があるかもしれませんが、『自分が決めて意味づけしている』という意識で仕事に取り組みれば職場も変わるし、人生が豊かになります。そういう意識で仕事に取り組んで欲しいと思います」と呼びかけて講義を締めくくると、会場には受講者からの感謝の拍手が鳴り響きました。

延岡会場も議論白熱

この研修会は平成29年6月23日、延岡市社会教育センターでも開催しました。

講師も宮崎会場と同じ、オフィス・アール代表の島原竜一先生。講義やグループワークを通じて、働くことの意味や生きがいなどについてご教授いただきました。

受講した54人も自らの仕事の中での実践に取り入れていこうと、積極的な姿勢で臨み、大変有意義な研修会となりました



作りました！「介護の仕事」PRパンフ（広報部会）

介護の仕事の魅力をPRするパンフレット、「マンガでわかる！介護福祉士のお仕事」を平成29年度も作成しました。

このパンフレットは地域医療介護総合確保基金にかかる宮崎県策定の事業を当協会が平成27年度より受託し、作成しているもの。介護の担い手不足が全国的な問題となっている中、若い世代に介護の仕事の魅力を理解してもらい、関心を高めもらい、介護の担い手になってもらうために作成、配布するものです。

パンフレット作成に当たっては、広報部会が協会事務局、県担当者と連携をはかりながら会員老健施設で活躍中の介護福祉士や、介護福祉士資格取得に向けて頑張っている介護スタッフにインタビューを行いました。これをもとにパンフ



レットは介護の仕事の魅力をマンガ形式で伝える内容となっています。また、介護福祉士になるためのルートや介護の仕事が必要とされる現場、県内の介護福祉士養成校などの情報も満載し、「介護福祉士への道案内」的な一冊に仕上げました。

「マンガでわかる！介護福祉士のお仕事」は前年度より印刷部数を大幅に増やし、県内の中学2年生全員に配布しました。今後ますます介護の担い手が必要となっていくと予測されている中、このパンフレットを手にした一人でも多くの方が、私たちと共に幸せとやりがい広がる介護の仕事の輪に加わってほしいと願ってやみません。

会員施設（宮崎県内の介護老人保健施設）

施設名	郵便番号	住所	電話番号	ファックス
介護老人保健施設 神楽苑	882-1102	西臼杵郡高千穂町大字押方1130	0982-72-3210	0982-73-1082
介護老人保健施設 螢邑苑	889-0101	延岡市北川町川内名7055-2	0982-46-2295	0982-46-3062
介護老人保健施設 シルバーケア新富	889-1406	児湯郡新富町大字新田481-1	0983-33-0120	0983-33-0221
介護老人保健施設 なでしこ園	884-0002	児湯郡高鍋町大字北高鍋3225	0983-23-8023	0983-22-5933
介護老人保健施設 信愛ホーム	880-2221	宮崎市高岡町内山2424	0985-82-5588	0985-82-5602
介護老人保健施設 サンフロラみやざき	880-1111	東諸県郡国富町大字岩知野字明久355	0985-75-2020	0985-75-2897
介護老人保健施設 はまゆう	889-1914	北諸県郡三股町大字蓼池660	0986-51-0001	0986-51-0010
介護老人保健施設 ハッピーライフ高城	885-1202	都城市高城町穂満坊455-2	0986-58-5566	0986-58-5567
介護老人保健施設 グリーンホーム	889-1911	北諸県郡三股町大字長田1270	0986-52-7011	0986-52-6168
介護老人保健施設 しあわせの里	889-2401	日南市北郷町大藤甲3589-1	0987-55-4800	0987-55-4507
介護老人保健施設 サンヒルきよたけ	889-1601	宮崎市清武町木原5886-16	0985-84-0333	0985-84-0700
宮崎市介護老人保健施設 さざんか苑	889-1702	宮崎市田野町乙7691-3	0985-86-1136	0985-86-4502
介護老人保健施設 さくら苑	889-4314	えびの市大字大河平4327-37	0984-33-2127	0984-33-5253
介護老人保健施設 菜花園	881-0026	西都市大字穂北字東原5253-4	0983-42-1122	0983-42-2210
介護老人保健施設 並木の里	881-0113	西都市大字下三財8124-8	0983-44-6066	0983-44-5109
介護老人保健施設 長寿の里	889-3531	串間市大字奈留5298-3	0987-74-1010	0987-74-2217
介護老人保健施設 メディケア盛年館	883-0051	日向市向江町1-196-2	0982-53-8788	0982-53-8780
介護老人保健施設 ラポール向洋	883-0021	日向市大字財光寺1131-24	0982-54-5016	0982-54-5018
介護老人保健施設 慶穰塾	883-0033	日向市大字塩見10947-1	0982-54-6541	0982-55-3209
介護老人保健施設 みずほ	886-0007	小林市大字真方87	0984-23-4152	0984-22-1239
介護老人保健施設 さわやかセンター	886-0003	小林市堤3008-1	0984-25-1234	0984-24-1748
介護老人保健施設 すこやかセンターこばやし	886-0004	小林市細野2033	0984-22-3397	0984-22-3423
介護老人保健施設 相愛苑	886-0006	小林市北西方字種子田原66-3	0984-24-1874	0984-24-1872
介護老人保健施設 みどりの丘	887-0023	日南市大字隈谷甲1218-1	0987-27-2525	0987-27-2529
介護老人保健施設 おびの里	889-2535	日南市飫肥6-1-15	0987-25-2012	0987-25-2013
介護老人保健施設 ハイム苑	887-0021	日南市中央通1-10-15	0987-23-0844	0987-23-5923
介護老人保健施設 マイ・グリーンヒル	882-0863	延岡市緑ヶ丘5-2-22	0982-32-8333	0982-32-5051
介護老人保健施設 トトロみのる園	889-0516	延岡市鯛名町422-9	0982-37-3336	0982-37-6780
介護老人保健施設 エクセルライフ	882-0803	延岡市大貫町1-2850-1	0982-32-1550	0982-32-1553
介護老人保健施設 昭和苑	882-0867	延岡市構口町2-125-1	0982-22-3200	0982-22-3211
介護老人保健施設 ウエルネス苑都城	885-0053	都城市上東町27街区16号	0986-21-1006	0986-21-1007
介護老人保健施設 こんにち わセンター	885-0079	都城市牟田町4街区10号	0986-22-7100	0986-22-8055
都城市郡医師会介護老人保健施設 すこやか苑	885-0062	都城市大岩田町5812	0986-39-1107	0986-39-5559
宮崎江南病院附属介護老人保健施設	880-0916	宮崎市大字恒久字鳥の巣6245-1	0985-50-6070	0985-50-6076
介護老人保健施設 ひむか苑	880-2112	宮崎市大字小松1158	0985-47-3434	0985-47-5376
介護老人保健施設 エンゼルホーム	880-0125	宮崎市大字広原1350	0985-37-1588	0985-37-1556
介護老人保健施設 グリーンケア学園木花	889-2151	宮崎市熊野470-2	0985-58-3000	0985-58-8000
介護老人保健施設 青島シルバー苑	889-2162	宮崎市青島4-6-3	0985-65-1122	0985-65-2110
介護老人保健施設 ことぶき苑	880-0925	宮崎市本郷北方字池田4043-1	0985-56-6622	0985-56-6628
介護老人保健施設 春草苑	880-0041	宮崎市池内町数太木1749-1	0985-39-8899	0985-39-8978
介護老人保健施設 むつみ苑	880-0041	宮崎市池内町伊勢領1344	0985-39-9200	0985-39-9506
介護老人保健施設 シルバーケア野崎	880-0837	宮崎市村角町高尊2105	0985-28-6555	0985-28-6580
介護老人保健施設 東海園	882-0017	延岡市川島町1080番地5	0982-30-1661	0982-30-1665
のべおか老健 あたご	882-0846	延岡市中島町4丁目314番地3号	0982-34-7575	0982-34-7579
このはな介護老人保健施設	880-2104	宮崎市大字浮田1677番3	0985-82-8600	0985-82-8601

【編集・発行】

(公社) 宮崎県老人保健施設協会

〒880-2112 宮崎市大字小松1158番地 TEL 0985-47-3941 FAX 0985-47-3967

ホームページ <http://www.miyazaki-roken.jp/> Facebook <https://www.facebook.com/miyazakiroken>